

タイトル (活動概要)	56 「ごめん」の一言	アプローチ (関連する力)	「仲間づくり」⑯		
タイミング (実施時期)	通 年	活動 場所	教室	所要 時間	45分
対象学年	幼・小低・小中・小高 中1・中2・中3・高	対象 規模	学 級	活動 場面	道徳
活動の ねらい	〈背景〉群れ合い体験の不足から、自分の非を認め、きちんと相手に謝意を伝えることができない子どもがいる ・あやまる必要のある場面のロールプレイを通して、自分が悪かったときにあやまることの大切さを感じる				
準 備	・「ごめん」の一言がなかったために、トラブルになってしまった例話 ・ワークシート ・ふり返しシート				
学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		資料等	
1 導入 ・例話をもとに、言われたBさんの気持ちを考える ・Bさんがいやな気持ちにならないためには、Aさんはどう言えばよかっただろう		(例話) AさんはBさんと遊ぶ約束をしていた A「あのさ、今日、遊べないから」 B「えー? 約束したのに!」 ・「ごめん」と言うことが大切 ・遊べない理由を言う ・心を込めて言う		・例話	
相手を不愉快にさせないための伝え方ができるようになろう					
2 主活動 ①Aさんがどう言えばよかったのか、グループごとに話し合いワークシートに書く ②自分たちの考えた言葉を発表する ③発表した中から、いい例を一つ（または複数）選び、その例を使ったロールプレイを行う ・全体の前でのロールプレイのあと、グループ内で交代しながらいい例のロールプレイを行う		・ポイントになることは三つ「ごめん」「理由」「心を込めた言い方」 ・この三つがでなくても、後のグループでの話し合いでであればいい ・グループ内で考えた言葉が適切なものになるとは限らないので、発表させた上でロールプレイをする言葉は、限定する ・ロールプレイは、最初全体の前で行い、よかった点を確認する。(心を込めた言い方、理由の説明)		ワークシート	
3 ふり返し ・ふり返しシートに感じたことを書く ・感想の中からいくつか全体で紹介する		・B役の体験の感想も紹介できるとよい		ふり返しシート	
配慮事項	・教師の目が行き届くよう、グループ数は4～6程度とし、できるだけ全体を視野に入れながら活動させる ・ロールプレイへの参加は強要しないよう配慮が必要。自然に参加できる雰囲気づくりを行う ・例話は児童生徒が積極的に参加できるよう身近な話題に改編すると効果的				

参考；相川充 佐藤正二編「実践ソーシャルスキル教育 中学校」(図書文化 2006年)

「ごめん」の一言ワークシート

() 班

Aさんの言葉を考えよう

×の例

A 「あのさ、今日、遊べないから」

B 「えー？ 約束したのに」

グループで相談してAさんの言葉を下に書こう

(時間があったら、Bさんの答えも考えてみましょう。また、何種類か書いてもいいです)



